

アマダイ通信NO. 126

(Tile fish network letter)

2018年 鈴虫鳴く

知人・友人各位

百年に一度の経済危機といわれたリーマンショックから10年。世界は公的資金で大手金融機関を救済、失われた需要を創出するために財政出動と減税、金融緩和で対応、日米欧は辛うじて総崩れの危機を免れた。他方で、4兆元の財政出動で素早く動いた中国が力をつけ、溢れたマネーは経済のグローバル化を更に進め、株価と地価を上昇させ、次の危機を膨らませる。資本の自己増殖、過剰生産、恐慌という本質が変わらない限り、相変わらずのケインズ流有効需要創出でしか危機を乗り越えないのか？ 国家による債務が膨張する一方、世界の富の82%を1%の富裕層が寡占するという。富の再配分で有効需要を創出、IT化で向上した生産性の果実も広く分配、労働時間の短縮と所得の向上で人類全体を豊かに、生活をより文化的、創造的にする選択、強欲資本主義との決別は不可能なのか？

◎災害列島・水の備えは万全ですか？

9月初旬、前々日は台風21号で止まっていた東海道新幹線で新大阪駅に。関空行き特急は運休ですとのアナウンス。このところ、大阪の地震、西日本の水害、台風21号、北海道の地震と災害が続く「災害列島」。火山が沢山あり温泉も楽しめるが地震も多い。周りを海に囲まれ台風も多いが、海の幸やマリンスポーツも楽しめる。高い山では山岳スポーツが楽しめ、降水量が多く、緑も豊か。冬はスキーなどウィンタースポーツと、四季折々の多彩な自然と多種類のスポーツ、豊かな食生活も楽しめる。短所と長所は裏腹。与えられた自然を前提に、自然災害というマイナスの側面を最少にし、広い領海や豊かな水と緑、多彩な自然というプラスの側面を如何に活用、豊かな国民生活を実現するか？

子供の頃、台風や大雨、大雪は突然人を襲い、貴重な人命と財産を奪った。伊勢湾台風のような大型台風になると数千人が犠牲になることも珍しくなかった。大人はガラスが割れないように窓に板を打ち付けたり、停電に備えランプや灯油を用意したり、雨漏りのためバケツやタライを集めたり忙しかった。そんな時でも子供は無邪気に風車を作って風に向かい、側溝に笹舟を浮かべ追っ駆けたり、台風を、非日常を楽しむ。子供が「祭」を楽しむほどに被害は拡大、国富が乏しかった頃、その回復は個人の努力、自己責任に任せられ、被害にあった人間は運が悪かったと泣くしかなかった。

半世紀以上経て、地震は未だ予知出来ないが、防災対策も格段に強化され、遙か洋上で台風が発生すると、刻一刻情報が伝えられ、過剰なまでの警告。被害は桁違いに小さい。地震で道路や、鉄道、通信や電気、水道などのインフラのみならず、家屋の損壊などの個人の損害の回復、生活の再建にも公的支援が行われ、海外からも支援の手が差し伸べられる。それだけ国民の生活、国力に余裕が出来、グローバル化の進行で、一部富裕層への富の集中と格差・亀裂の拡大が言われる一方で、国民の、人類の連帯が進んだということか。正に世紀も代わり、「隔世の感」がする！

今でも大雨や大型台風の度、多くの人命が失われ交通網が寸断、電気や水道などのライフラインが破壊される。水道がストップすると飲水や調理、トイレも不自由、工場もストップ、病院でも手術や人工透析が出来ず命の危機に直面。東大病院を初めとした大学病院、

京都駅ビルなどの駅ビル、新宿京王プラザなどのホテルなど、大量に水を使用する施設で、電源開発（Jパワー）の先導役として同社の井水利用専用水道の普及に努める。この度 JR 西日本の大阪鉄道病院でも井水利用専用水道がスタート。水力発電所や火力発電所を多数運営、水利用技術にたけた電源開発が、その費用で井戸を掘り、膜ろ過などの水処理施設をつくり浄水を安く供給、市水と併せ水源を二重化、事業継続性を高めた上で、水道代を大きく削減。東大病院では年間 3 千万円、医科学研究所では 1 千万円水道代を削減、併せて毎年 4 千万円を母校に寄付していると嘯く。

◎ 5 月の連休で冬終わる

五月の連休後半初日の大渋滞を避け、4 日朝早く越後湯沢のかぐらスキー場を目指す予定が、前夜のテレビは日本海側は荒れ模様、落雷注意とうるさく、諦めて寝る。起きてかぐらスキー場の天気をネットで確認すると曇で、雨雪問題なし。居ても立ってもいられず、慌てて旅支度。四駆にスキーを積み、一人関越道を走る。ウェアもスキー靴も財布も携帯も忘れず、前回の轍は踏まず。天気予報にも関わらず思いがけない渋滞、高坂まで倍以上の二時間、二時間半の嵐山パーキングでコーヒーブレイク。まだ 3、4 時間は滑れる、岩原に泊まって、明日も午前中かぐら三俣で滑ってから帰ろう。

トンネルの前から雨、トンネルを出ても雨。湯沢の新橋亭に直行、美味しい蕎麦と山菜でもと思うが、取り敢えずスキー場へ。スキー場の駐車場も満杯。三俣の道の駅で美味しい山菜でも食べられないか？ようやく道の駅の駐車場の空きを見つけ入るが、レストランも満杯、湯沢の街へ。偶々新橋亭の駐車場が空いてて車は入るが、店の入口は長蛇の列。駅の反対側の中野屋へ。ここも待ち人の路上駐車が道の両脇にずらり。休日は中野屋の駐車場に化ける信用金庫の駐車場に辛うじて滑り込むが、店は 30 組待ち、食べられるのは夕方だという。車はそのまま、駅ナカの小島屋へ。ここも 10 人くらいは並ぶ。少子化で寂れるばかりという日本国はどこの国？越後の國は日本じゃない！一度は並ぶが、美味しいとは言え、蕎麦食べるだけ。ビールくらい飲みたい。小島屋に並んで無駄に時間過ごすより、駅弁買ってマンションで越後の山波を眺め、日経読みながらビールという手もある。駅弁ぶら下げ、駐車場に引き返す。マンションに着くと、爺婆食堂に酔客。この手があるのを忘れていた。一人酒よりこっちがいい。お新香と冷奴、もつ煮でビール。運転の疲れと期待外れ続きの不運を払う。チョイ酔いざましの積りで昼寝が二時間半もグッスリ。低気圧が去り青空が広がる。明日は大丈夫そう。一風呂浴び、爺婆食堂で又、手酌酒。冷蔵庫の駅弁は明日の朝飯だ。

翌日 7 時過ぎにマンションを出て、越後川口で梓川と合流、信濃川となる魚野川の川原に設けられた、三国トンネルを通り群馬に抜ける三国街道沿いの三俣の Gondola 駅へ。駐車場は結構埋まり、キャンピングカーの脇で朝食をつくり楽しむ者も。シニア午前券（5 時間）を 3 千円で買い、少し待って 8 時ジャストの百人乗り？ Gondola に。座席もなく、「物」扱い？三俣は下山用に連絡リフトの脇だけ雪の通路。かぐらの Gondola 駅まで滑降、6 人乗り Gondola とリフトを乗り継ぎ、かぐら山頂へ。連休の前半、奥只見丸山で汗かいて滑ったので、スキーズボンの上はランニングに半袖ポロシャツ、風よけの UNIQLO のウィンドブレーカーの軽装。寒くてフリースを一枚重ね着。シーズン末期、こぶの多いザラメ雪を何回か滑り降り、苗場スキー場とかぐらスキー場をつなぐ位置の田代スキー場へ。

電源開発の揚水発電用のロックフィルダムに向かって滑り降りる様に、7本ほどあるリフトが設計された田代スキー場。広大なエリアを誇る3スキー場は堤西武が造る。夜間の余剰電力を利用、下のダムから揚水、電力需要の増える昼間に発電する揚水発電所。発電量の調整の利かない原発が休止、その役目が果たせなくなり満々と水を湛えた眼下のダムの碧が美しい。一通り田代を滑り、リフトを逆に乗っては滑りでかぐらに戻る、野口ヒュッテで千円のけんちんうどん。隣で栃尾の油揚げと地酒のチケットを差し出すお姉さんが羨ましい。マスターを除けばここでも、キッチンで働くのはアジア系の外人さんばかり。

午前に上がり、渋滞が始まる前に帰りたい。帰りもゴンドラに乗った方が少し早い、スキーで下山。リフト12本分とゴンドラ1本分を滑走、シーズン14回目、最終run終了。三俣のゴンドラ駅まで、雪融けの碧の水を集め、白浪を立てて駆ける魚野川と川原の石くれの淡いグレー、新緑と残雪の白の、綺麗な縞模様のパッチワークの上を空中散歩、❄の冬終わる。駐車場を12時半くらいに出て湯沢から関越に乗る。幸い渋滞はまだ。高崎近く、嵐山小川から先30キロ90分の渋滞表示。東北道方面は渋滞表示なし。高崎から北関東道を快調に走る。東北道に入り、羽生から館林間も7キロ25分の事故渋滞。ここを抜けると順調に走り、湾岸線を晴海で降り4時半帰宅。一風呂浴び❄の冬終わる。

◎一夜で要介護1から4に！老々介護、共倒れの危機

朝5時前に起き、読み残しの前日の日経を広げ、5時半から朝食を用意。自分用のレーズンバターロール1個と妻の好きな切り餅をオーブンに入れ、チンというと先ずパンを取り出し、もう一度セット。程好い時間に設定しないとパンは黒焦げ、お餅はパンク。スーパーで買った「白菜だけ入れればクリーム煮」に、白菜だけでなく「豚肉だけ入れれば豚汁」の野菜パックと冷凍のロールキャベツ、ベーコンを刻んで入れた「❄風ロールキャベツと白菜のクリーム煮」を暖め、コーヒーを淹れ、1本のバナナを分かち合う朝食。TVでニュースを追い、朝日新聞を広げてのナガラ食。飽きないように目先を変え、「玉子を入れれば蟹スープ」に玉子だけでなく、絹ごし豆腐、海老とイカ、アサリの冷凍海鮮セットとキャベツも刻み作り置く。更に有名シェフが監修した冷凍餃子を入れ、具沢山「❄風蟹風味スープ餃子」や「あさりご飯の素」に「豚肉だけ入れれば豚汁」の野菜パック、白菜、冷凍のチキンナゲットを入れ、塩糍や年中作り置きのおデンの出汁を入れるなど、❄流の味付けも。美味しい！美味しい！と自画自賛。元学校給食の栄養士にも美味しいとおだてられると、料理人になるんだって、人生を間違えたと真顔で応える。

❄が目先を変え、工夫して作り置きした「手料理」を温め、餅をチンして昼、夜と食べ、どうにか風呂も自分で掃除して入浴、❄が酔っ払って帰る頃には寝息。8月3日の金曜日まで体の不自由さに耐え、杖や手すりも使ってどうにか自立生活、要介護1の妻が、翌土曜日の朝突然、起き上がることも寝返りも、トイレに行くこともできない。食事も自分だけでは摂れず、一人では何も出来ない。手足の痛みがひどく、眠剤を使っても目を覚まし、十分眠れない。5日の日曜日、仲間と埼玉の小川カントリーでゴルフを楽しむ予定もドタキャン、土日付きっきりで妻の面倒をみる。介護保険を利用、外出用に車椅子を1台借りるが、室内用にもう1台借りるのも間に合わず、室内の移動にも使う。妻は一人では動かせず、❄に連絡がつかない時は、大声も出せず、這って出て来る始末。運動機能の急な衰えは予想出来ず、痛みも益々ひどくなるよう。困惑するばかり。

月曜日は三楽病院の神経内科の主治医の先生が東大から診察に来る日。仕事の予定をキャンセル、車を走らせ、予約なしで病院へ。半日待っての診立ては、手足の震えはパーキンソン病か本態性振戦、歩行などの運動機能の衰えは、レビー小体型認知症で、急に様態が悪化したのは薬の飲み間違いではないかと、あらためて薬を処方。だがこのままでは老々介護で共倒れになる。出来ればどこかに入院するか、介護施設に入れて貰うしかないが、急には手当出来ない。娘が近くに住むが、忙しく働きながら、子育て中。●が介護するのでは、仕事が出来ず共倒れ。進退窮まる。

6日の夕方から7日一杯は偶々休暇中の息子に家に来て世話をして貰う。今年も早めにお盆休みを取り、9日から13日まで、故郷白神の海で小学3年生の孫娘と素潜りツアーの予定で、8日から14日までは近くの介護施設にショートステイする予定。その間に当座世話して貰える病院か介護施設をケアマネージャーに探して貰うが、みつからない場合の備えも必要。介護保険を利用、ヘルパーさんに来て貰うという手もあるが、介助毎の短時間利用で、半日とか一日世話をして貰うという訳にはいかない。それでは仕事が出来ない。娘が利用している家政婦さんの派出所がシルバー対応してくれるという。最悪、日中は家政婦さんに来て貰い、夜は自分が面倒見ればいい。娘に手配を頼む。最悪どうにかなると一安心したところで、目と鼻の先に出来たばかりの病院の個室に空きが出来たと、ケアマネさんから吉報。築地の聖ルカ系列の小さな病院で、差額ベッド代一日2万円だが、背に腹は代えられない。当面の危機は脱出。妻の様態が急変したので要介護認定を再申請、1から5まである内の4、「重度の介護が必要な状態」に。

◎生体検査・・がん患者気分

妻の容態の悪化で、NP0法人緑の地球ネットワークの中国黄土高原植樹ツアーを止め、8月下旬のスケジュールに余裕が出来、2年半振りに三楽病院でがん検診。先ず上部CTの後、胃カメラ。呑み込む時はさほど違和感がないが、終りかなと思ったら、もう一度引き返し検査。きつく自然に目から涙。炎症があり、組織を採って生体検査。映像を見るが、線状に数本短く紅く出血していたのはその痕跡か。大腸がん手術は17年以上前、原発の食道がんの可能性か？2年少し前は何もなかったもので、重症ではないだろうが、2年半もほったらかしにしたのが悔やまれる。同じ部屋で食道を切って繋ぐ手術をした患者は、接合部が盛り上がり、食事の度にひっかかり、苦しそうだった。抗がん剤や放射線治療も進化しているから、切らずに済むといいな。がんも直らない病気じゃなくなったし、ステージIIIb(殆んど治癒する見込みなし)の大腸がんで30センチ割腹、盲腸諸とも大腸を30センチ切ってつないでも、18年近く生きてると、半ば食道がん患者の気分。

別の日、午後大腸の内視鏡検査。腸内をきれいにするために早朝から2Lの下剤と格闘。孫息子との保育園への同伴出勤は諦めるが、お尻を気にしながら、午前中客先で一件打合せ。指ほどの太さで尻から入り、ピンクにテカテカ光る綺麗な腸内をクネクネする。日本が世界に誇る優れたものはオリンパス製。内部はレンズ用、水噴射用、メス用、縫合用など幾つもの役割をする細いケーブルがまとまって収まる。ポリープを2個切除。少し膨らんだポリープの基層部に薬液を注入、大きく膨らませ、浮き上がった患部をワイヤで鋏切る。更に白い部品で傷口を塞ぐ。残置品は縫合糸の様に体内で分解する。医療技術の進歩は素晴らしい。出血するといけないと一晩泊めおかれ、手ぶら入院。夜は絶食。お茶で我慢、

おちゃけなしは久振り。お粥と野菜の煮物、野菜スープ、ピクルス、味噌汁の朝食も美味しく感じる。幸い出血もなく、速効でお通じ、大腸は快調。翌週頭に胆嚢、膵臓などの下部CTと、検査週間。

10日ほどして、かつて大腸がんを手術してくれたゴッドハンド、三楽病院の阿川院長の診察。少し心配したが、食道と胃の繋ぎ目、噴門が緩くなり胃液が逆流、炎症。加齢による逆流性食道炎で、胸焼けを起こしていなければ問題ない。特に胸焼けの自覚症状はない。2つ採った大腸ポリープも良性。肺や肝臓、胆嚢、前立腺も、以前からある胆管結石を除けば問題ない。大腸の内視鏡は3年に1回でいいが、胃の内視鏡は毎年した方がいいという。ピロリ菌を駆除して貰いましたが、というと、胃がんの原因はピロリ菌だけではないという。加齢で華麗にとはいかないが、もう少し生きて、人の役に立て！ということか。

◎アワビ手掴み！海藻力の差？今年も孫娘と故郷へ！

妻をショートステイさせ、今年も8月9日から13日まで予定通り田舎へ素潜りの旅。雨の東京駅から新幹線で白神の海に向かう。隣で小3の孫娘メイが、ようやく買って貰ったスマホをいじり、秋田は晴れだ！と元気にはしゃぐ。12時過ぎに秋田着、結構暑い。駅レンタカーを走らせ、銘木を贅沢に使った平屋の岩館の実家に4時頃着くが、早く海に入ろうという孫娘に手を引かれ、海岸段丘の坂道を下り、慣れ親しんだ地先の浜で一潜り。去年と違って、さざえ手掴みの成果はなし。分厚く成長した庭の苔に、兄がたっぷり水を撒いてくれたお陰か、夜中に寒気を感じて、開け放された広い縁側の掃き出し窓を閉じ寝直す。目を覚ましたメイは兄と一緒に畑にナスとキュウリをもぎに行くが、今年は猿に出会わず。畑で採れたての野菜、兄夫婦が自分の山で採って加工・保存している山菜や茸、地先の海で獲れた魚介をたっぷりご馳走に。朝食後、車を走らせ、断崖の上に聳える白い灯台の近くの水の澄んだ海で、今回2度目の素潜り教室。🐞が小さなさざえを3個みつけただけで、出掛けに兄が渡してくれたドライバーを海パンの尻ポケットに潜ませるが、アワビをみつけて使う機会はなし。澄んだ海で群泳するタナゴや黒鯛、フグの子、ゆっくり岩の間を舞うアイナメ、足下から猛スピードで逃げ去ったり、遠くで悠々泳ぐ鯛を何度も目にする。可哀想なさざえは大きくなってからもう一度捕まって、と海に放す。

昼食後、国道101号線の山と海の間絶景ドライブを楽しみ、先着の妹達と高校同級の田口君が経営する青森側、深浦町の森山荘の「プライベートビーチ」で合流、浅瀬でつぶ貝捕りを楽しむ。天候が悪く海水温が低下、早目に切り上げると、山仕事が趣味の兄の仲間、「青い森国土保全協同組合」の平沢常務理事が訪ねてくる。コンクリート型枠用に使われるような低級品の木材の販売先がなく困っている、以前中国に輸出したが代金を回収出来なかった、一船分の3千立米は集荷出来るという。外材の輸入だけでなく、我が国がわずかながら輸出する国産木材の過半を輸出する阪和興業顧問の🐞、まとまった量を集荷出来るなら阪和の木材部に繋ぐことに。青森でうまくいけば、秋田でもということになり、白神全体、日本の木材産業と国土保全のため役に立てる。3日目の11日朝は、一人目を覚ます。孫娘の愛衣は隣の部屋で3歳下の妹の真理子、その娘の精神科医の綾、3歳の孫娘藍と女子会で盛り上がりそのまま眠る。お陰で、能代から訪ねて来た高校同期、旅行・不動産を息子に譲り、悠々自適の梅田実君、田口君と3人で、ゆっくり盃を交わす。

森山荘の上空は黒雲に覆われ、明け方まで雨。水温が低く、泳げない。早く海に入りたいという孫娘をなだめすかし、次の宿泊地鱒ヶ沢に向かう。途中、平坦で広い石畳が続く千畳敷で休憩、孫娘はさっさと水着に着替え、磯でじゃぶじゃぶ。お盆休みの鱒ヶ沢の町は人出が多い。「海の駅」はごった返し、比較的空いてる店を探し、ようやくお昼。海浜公園の砂浜で泳ぐが、波が砂を巻き上げ、視界が悪く、素潜りどころではない。ヨード混じりの薄く黒づいた温泉も、高台のオーシャンビューのホテルも素敵だが、砂浜では、素潜り教室は開けない。岩浜に慣れ親しんだ●には世界の名だたるビーチリゾートも、サザエもアワビも、つぶ貝さえも捕れない、「生産性の低い」海で魅力に欠ける。今回も森山荘ではつぶ貝を皆で拾って、茹でて貰い、お酒のつまみにして楽しむ。鱒ヶ沢のオーシャンビューの素敵なホテル。反対側の部屋の正面、中腹から上は雲に遮られるが岩木山が眼前に迫り、右手は世界遺産の白神連峰。マウンテンビューも素晴らしい。美しい景観や波に戯れ、日常からの解放、癒しと安らぎを求める人間にとっては最高の環境だ。

グレートバリアリーフなど、ダイビングを楽しめるビーチを除けば、世界には圧倒的に長い砂浜を売りにするビーチリゾートが多い。獲物にこだわる●は、狩猟採集民アイヌの末裔か？「唯物論者」は、前日孫娘が水遊びだけではつまらない！と言った千畳敷で素潜り。浜には人が多く、駐車場探しに苦労するが、泳ぎ人さえ稀で、素潜り人はいない。沖の岩場まで二人で遠泳するが、サザエも見つからず。千畳敷の巨大なテーブル岩を、日本海の荒波が鋭角に削ってつくった幾筋もの切り込みに、高く押し寄せては引く強い波に抗いながらつぶ貝を探す内に、1個ずつ小さなさざえをゲット。妹達が持参した大きな西瓜を子供二人が流木の枝で叩く「西瓜割」の儀式。庖丁で割って楽しく食べる。孫娘は食べきれない西瓜を両手に、「スイカは要らんかねー」と営業、捌き切る。営業力もありそう。前日休憩してイカ焼きとゆでトウモロコシが美味しかった深浦の道の駅で遅めのお昼。食堂の席の獲得にも苦労。少子高齢化で縮み、寂れる東北の寒村もこの時期だけは膨らみ、賑わう。大人3人は売り切れ続出の自販機のメニューから塩ラーメンを選び、子供達は珍しい？玉子タコ飯のパックを美味しく食べる。妹一行とは取り敢えずここでお別れ。

孫娘と二人、黄金崎の不老不死温泉へ。黄金色の露天風呂の目の前の磯で潜る。右側は女風呂なので、左手の磯伝いに沖へ。後から続く孫娘が浅場で先ずサザエを獲る。去年と同じような孫娘の拳より大きいさざえをゲット。続いて●が波が荒く飛沫を上げる、岩の裂け目の奥の浅場でアワビをみつける。波に翻弄されながら、これがアワビと指差し孫娘に教えるが、岩場にぴったりと貼り付き、孫娘は勿論、●が岩とアワビの間に手先を引っ掛け剥がそうとしてもピクリとも動かない。ドライバーを持参するんだと後悔、諦めて引き返す途中、浅い岩の裂け目に海草の貼りついた岩と同じく紫や赤、白の模様を纏ったアワビの背。素人目にそれと区別するのは難しいが、経験を積むと気配で判る。大きな岩塊にぴったり貼りつくのではなく、独立した石くれに粘着しているよう。持ち上げられれば道具なしでゲット出来る。石に手をかけると動く。ラッキー！結構大きな石ごとアワビをゲット。岩ごとアワビを獲るのは生まれて初めて。続いて●が入江の反対側で孫娘と同じくらいの大きさのサザエをゲット、面目を施す。海辺の黄金色の露天風呂を楽しむ。獲物を露天風呂の縁に並べ眺める。その先の日本海に、白い波しぶきも、群青の水面も、灰色の雲さえ茜に染め、夕陽が沈む。小3、心なし胸も膨らみ始めた孫娘は、今年も水着模様の、生まれたままののびやかな姿で、男になったり、女になったり、無邪気だ。

最終日、秋田の妹の所でお昼をご馳走になる。取り敢えず岩に貼りついたアワビを浴用タオルで巻き、部屋の冷水用ポットの氷水を捨て、潮水を汲む。タオルで岩ごと巻いたアワビとサザエを洗面ボールに入れ、塩水に浸す。秋田まで生かして持ち帰り、3才の藍ちゃんに活きたアワビを見せてやりたい。岩館の海ではその気配すら感じなかったアワビやサザエを、青森でゲット出来たのは何故？青森でも岩崎の森山海岸では岩館の海と同じく、アマモやホンダワラ、ワカメなど、陽光を求め水面に向かい伸びる海草を見掛けない。深浦から鱒ヶ沢にかけてつながる漁港には繋がる船の数が多く、青森の方が秋田より港と市場に活気が感じられた。「海草力」の差か。黄金崎の海には身が厚く幅広で褐色、先が白く枯れて千切れたような海草が群生、波に揺れる。昆布は高水温に弱く、本州では成育が難しい。昆布の仲間のカジメか？アワビやサザエなどの貝、魚が育つには餌や隠れ家となる海草が不可欠。🐞が岩館や森山では全く貝の姿を目に出来ず。千畳敷では辛うじて小さなさざえをみつけ、黄金崎ではアワビまでみつけられたのは「海草力」の差か？海草力の差は何に由来するのか？沿海の町でも下水道の整備が進み、海水がキレイになり過ぎ、「水清ければ魚棲まず」だという意見と、能代火力の増設で能代港の水の流れが変わり、米代川の上流の処理の進まない汚染水が北上する様になったからだという、正反対の見解を聞く。どちらが正しいのか？それとも他に理由があるのか？いずれにしろ、「海草力」を再興しない限り、白神の漁業の復活も、地域の振興もないのではないだろうか？

◎今日の世界秩序と国際裁判・東大三鷹クラブ第140回定例懇談会

今回は、15年にわたる国際司法裁判所裁判官を退任され、このほどオランダから帰国された小和田恒さんを講師にお迎えます。小和田さんは、三鷹寮友ではありませんが、私と駒場時代の同級生（1951年入学 文I 13D組）で、卒業後もトレーズ会の名称で集まりをつづけており、その御縁で、講師をお願いしました。トレーズ会のメンバーでは、かつて駐米大使から帰国された栗山尚一さん（第8回）や、作家の黒井千次さん（第103回）にも、ゲストスピーカーとして登壇していただいたことがあります。

小和田さんは、新潟県高田高校出身、真面目な勉学への姿勢は、クラス仲間から一目置かれる存在でした。その一方で、仲間と良くつき合い、卒業後の同期の集まりでも、忙しい公務の合間を縫って、しばしば幹事を引受けておられました。早くから国際関係に関心の強かった小和田さんは、当時創設間もない教養学科に進学、在学中に難関の外交官試験に合格、卒業後直ちに外務省に入省。労働省で、地方を含め、国内勤務中心だった私とは、仕事の場でお会いする機会はありませんでした。私が在英大使館に出向中の1971年、昭和天皇御訪欧の首席随員だった福田（赳夫）外相の秘書官として、小和田さんがロンドンに來られた時、公式の食事の場面などで御一緒したことが唯一の接点でした。

小和田さんは、外務省では、国際条約に関係するお仕事に就くことが多く、条約局長を務められ、その後、官房長、外務審議官、事務次官、国連代表部大使を歴任、1998年退官されました。小和田さんは、有能な行政官、外交官としてばかりでなく、国際法の分野での学問的業績は、早くから注目され、在米大使館公使時代の1979年、官房長時代の1987年、退官後の2000年と、3度に渡りハーバード大学の客員教授に招請されました。国連代表部大使時代（1989年）は、ニューヨーク大学、コロンビア大学でも教鞭をとられました。

国内でも、退官後、日本国際問題研究所の理事長を務められるとともに、早稲田大学客員教授はじめ、多くの大学で教壇に立たれました。

2003年、国際司法裁判所裁判官に任命された後、今年まで15年間にわたって裁判官をつづけられ、その間2009年から3年間同所の所長にも就任されました（日本人初）。同所では、数多くの国際的な紛争案件にかかわって来られましたが、今回は、それら貴重な体験を基に、小和田さん自身から同所についてのお話を伺えることを、大いに楽しみにしております。（平賀 記）

日 時 : 平成30年9月27日（木） 18時30分～21時

場 所 : 学士会館本館302号室（千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931）

会 費 : 6000円（会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み）

二次会 : 別途 有志による二次会を、すずらん通の中国料理店 SANKOUEN にて開催予定

定 員 : 50名（先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません）

申込先 : 平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email : tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp

◎味は文化です！ ‘18年度第1回交流会

7月14日（土）夕方、赤門前のチャンコ『浅瀬川』で、今年度最初の「味は文化です、交流会」を開催、🐟事務所で二次会。この秋から会社派遣で、学生時代に続き二度目のアメリカ留学（シカゴ大）の2008年入寮の宮本洋之君（（株）経営共創基盤）など、多彩な顔ぶれで、賑やかに交流。参加者は、青山絵里香（2016・文Ⅲ 文学部東洋史学・愛知・一宮）、柏田祐樹（2017（院）・理学系研究科天文学専攻・埼玉・栄東）、司露（2017（院）・教育学研究科比較教育社会学コース・中国陝西省咸陽市）、遠藤菜々子（2017・文Ⅲ・静岡・浜松西）、北浜駿太（2017・理Ⅰ・岡山・倉敷天城）、花畑三華（2017・文Ⅲ・石川・小松）、ラーリック寿里晏（2017・理Ⅱ・茨城・水城）、李昌（2017・理Ⅰ・愛知・一宮）、茶園将司（2018（院）・法学政治学研究科・大阪・三国丘）、向井歩（2018（院）・工学系研究科建築学専攻・大阪・京田辺シュタイナー学校）、菅野晃太（2018・理Ⅰ・北海道・旭川東）、戸田昇吾（2018・文Ⅰ・広島・広島学院）、永山龍那（2018・理Ⅰ・岡山・倉敷天城）、OBが岡本和也（2006・理Ⅰ 工学部計数工学科→情報理工学系研究科・愛知・岡崎）、國枝 明弘【春風亭昇吉】（2003・文Ⅱ 経済・岡山・城東）、井上豊（1968・文Ⅰ・愛媛・愛光）、勝部日出男（1968・文Ⅰ 法学部・鳥取・米子東）、🐟（1966・文Ⅰ 法学部・秋田・能代）、赤池敏宏（1965・理Ⅰ・大阪・大手前）、須田沃（1965・文Ⅲ 文学部東洋史専修・新潟・柏崎）、平賀俊行（1951・文Ⅰ・北海道・稚内）、二次会から田部淳ウィリアム（2009・文Ⅰ 教養・宮城・仙台第二）、宮本洋之（2008・文Ⅰ 法学部・大阪・洛南（京都））。

◎終わりに

自分と妻の健康と病気、孫の話という、年寄らしい話題が多くなってしまったと、書き終えて反省。それにしても病院を経由せず、突然介護施設を探すという、老々介護、共倒れの危機には往生。取敢えず妻は病院にということになったが、介護の社会化という介護保険制度の意義をあらためて思い、より良い制度に育てばと思う。再見！